
ループ・エン・ダンス

森かえで

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ループ・エン・ダンス

【Nコード】

N5396F

【作者名】

森かえで

【あらすじ】

登場するのは「私」と「彼女」。描写に偏ったひとつ。

夜の帳。満ち満ちる陰と寝息と、密やかな足音。

躍る躍る。躍ってゆく。高架下。あぜの小道。薄汚れた横断歩道。滑らかに足を踏み出して。汗をうなじにうかばせて。

小さく黒目がちの瞳が十六夜の月に反射している。

私はじっと、彼女を見ていた。

私の吐息と彼女の吐息は荒く白い。それぞれは同じ方向に流れ、同じだけの大きさと濃さで宙に漂い、同じ早さで消えた。そう見えた。だから彼女が躍っているようには感じられなかった。それとも私も躍っていただろうか。彼女と共に夜へと繰り出して。

寒かった。

私は彼女を見ていた。

彼女の躍りは単調でしかし奔放的。

熱心であるだろう。

彼女について考える。身体を心象をイメージする。そういう時間も多かったけれど、いずれ消える。

思考に意味はあるか。私の頭はちっぽけで、頭の中の世界はちっぽけで、その世界の中に彼女の姿があった。彼女は紫色のアイスクリームを食べ、柔らかい毛布を引き寄せて眠る。夕立ちに気づいて天を見上げる。

いずれ消える。

だから彼女がしていることもきつとちっぽけなのだろう。少なくとも私の中で。彼女はとても熱心に踊っている。

彼女の姿が小さいならば、私の姿が大きくなる術はない。

私はなんと小さいものだろう。ならば彼女もやはり小さいのだろう。月は十六夜、生き物の目のように、それは穏やかに。彼女の靴

の音は、その引力に寄せられ折り畳まれた。波のように。

躍る躍る。彼女は躍る。

波の音は聞こえない。草木の息の音は聞こえない。星は不安定に瞬いているのだろう。

私はいつかそれを見ているのだろう。彼女もいずれそれを見るだろう。

私はいつか彼女と共にそれを見たい。そして静かに、笑いあいたい。

そつと視線を通わせる、ちっぽけな私たちは。

猫の声が遠くから、微かに響いてくる。彼女ははっとする。視線を、斜めにずらす。流れるステップは変えないで。

躍る。

私は彼女を見ている。

（後書き）

危ない刑事を見ながら、二時間ちょっとでゆっくり書いたもの。

表現としての文章は自己満足で良い。だからこそ人に見せる文章をつくるのは苦痛を伴う。

そう聞いたことがあります。

この文章は、はっきり正直、前者ですね。

でも、楽しんでもらえることを望んでいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5396f/>

ループ・エン・ダンス

2010年10月12日03時25分発行